

令和 6 年度学校自己評価成果と課題

教務部	成果	・行事や全校集会など新型コロナウイルス感染症流行以前の形に戻すことができた。荒天や公共交通機関の影響などの影響で行事の順延が相次いだ、臨機応変に対応することができた。 ・猛暑・酷寒対策として、終業式などを空調設備のある教室で行うなど、状況に応じた対応を行うことができた。 ・授業公開や教員向け研修など、授業改善につなげる取組を着実にを行い、指導力の向上につなげることができた。 ・創立 50 周年記念事業について実行委員会を 3 回開催し、準備を進めることができた。
	課題	・創立 50 周年記念事業を滞りなく実施できるよう、役割分担や進捗管理などを適切に行い、準備作業を進めていく。 ・定期考査が最大 5 日間にわたることから、生徒の負担を考慮し実施日程など検討する必要がある。 ・観点別評価の在り方について、引き続き精度を上げていくべく検討をしている。
進路指導部	成果	進路計画に基づき、進路行事・講習・進路情報の発信ができた。
	課題	生徒に学習する重要性をより一層説くことで学習時間を確保させるよう努めた。
生徒指導部	成果	多くの生徒が爽やかな挨拶が出来るようになったり、時間や決まり事を遵守する意識が高まってきた。引き続き声かけを行っていききたい。
	課題	SNS に関するトラブルや、高校生として不適切な振る舞い等が見受けられる。クラス、学年、学校全体として根気強い声かけや意識啓発に取り組む姿勢が必要である。
生徒会部	成果	各行事において、来年度に迫った創立 50 周年の記念行事を視野に入れ、企画・準備・運営にあたった。体育祭においてはコロナ禍前に実施できていた種目を復活させるなどして、生徒一人ひとりが主体的に且つ、のびのびと参加できていた。文化祭においては、悪天候による交通傷害等で、順延となったが、企画内容も徐々に充実してきており、また、今年度初めてキッチンカーを導入し、例年よりも活気のある文化祭が運営できたと考える。
	課題	① 創立 50 周年の記念生徒会行事を念頭に、行事に必要な物品の購入や生徒会行事の内容のグレードアップ化などについて、確実に取り組んでいく。 ② 各種値上げに対する対応を念頭に、検討を重ねていく。 ③ 生徒会新聞、生徒会誌における原稿入稿のデジタル化が定着するように、マニュアル化やセキュリティー面の検証等を重ねていく。
施設保健部	成果	生徒の健康管理について ・健康診断、身体測定を予定通りに行った。 ・健康観察や健康管理を促した。 ・体調不良や怪我に適切に対応し、処置をした。 学校施設の整備と美化について ・清掃計画を立て、毎日の清掃を通した校内美化に努めた。 ・必要に応じ、大清掃やワックスがけ等を立案した。 ・様々な値上がりに対し、予算内で収まるよう物品購入した。 ・避難訓練や救急法実技講習会を行った。 ・保健室二人体制になり、生徒への充実したサポートができた。

	課題	・インフルエンザ感染が多く見られた。また、コロナも切れ目なく感染者がいることから、予防の重要性について声かけを続ける必要がある。 ・清掃用具や消耗品類の購入に関し、予算内でできる限り補充したが、物品の値上げや清掃箇所によっては新たな用具を要望する声もあり、それに応えるには予算を配分してもらう必要がある。
教育情報部	成果	・校務支援システムにおける他の分掌との役割分担が明確にできている。 ・生徒用タブレットに関して年度初めの一斉配付と卒業生からの回収はスムーズに行えた。また故障や様々なトラブルへの対応法もある程度整理できている。 ・欠席等連絡の Web 入力システム、Classroom、Meet や Form など、授業やホームルームで有効に使われている。 ・生徒用タブレットの破損に対する注意喚起および修理費負担のアナウンスを徹底した。
	課題	・職員は ICT 機器を使用する際に、下記のような多くの制約を受けており、業務に支障をきたしている。ネットワーク設置者に働きかけていく必要がある。 - 学習支援システムでは同時接続数に限りがあり朝学習などで利用できない。 - 校務支援システムでは当初教室で出欠入力ができるはずであった。 - Google Workspace へのアクセスでさえインターネット分離やファイル無害化が必要であり煩雑である。 - Excel のマクロなど管理職への許可が必要な点も問題である。 ・教師用タブレットの台数が充実してきたが、全員に行き渡るまであと約 10 台不足している。 ・生徒用タブレットの破損が 6 件あり、修理費がかさんでいる。 ・コード(11 本)、キーボード(6 台)など経年劣化が見受けられ始めており、次年度以降も傾向が続くと予想される。
1 学年	成果	・様々な悩みやストレスを抱える生徒に対し、カウンセリングや面談を通してフォローすることができた。 ・行事や講演において、積極的に取り組む姿勢の向上やおちついて話を聞く態度が見られた。 ・進路講演会や上級学校見学を通じて広い視野や進路への意識付けを持たせることができた。
	課題	・学習習慣が確立されておらず、1 日の平均学習時間が少ない生徒が多い。 ・SNS によるトラブルやスマホ依存 (SNS・ゲーム等) の生徒が多く見られ、体調管理や学業への取り組みに影響が出ている。継続した注意喚起・指導が必要である。 ・対人関係についてストレスを感じ、長期欠席するものが見られた。新年度のクラス替えに伴う人間関係の構築に配慮したい。
2 学年	成果	・進路探究を進める中で、意識の変化や学習への取り組みの変化が見られる生徒及び具体的な進路を掲げる生徒が増え、模擬試験を意識的に受験する生徒も増えた (160 人以上)。 ・学励クラスの県外大学視察を実施し、大学の授業を体験することで、進路意識を醸成させることができた。 ・修学旅行を通して、時間管理や事前準備の重要性を学び、協調性や他者への思いやりなど成長を感じられる生徒が増え、学年全体の一体感がでてきた。
	課題	・朝学習への取り組みに大きな差がでてきた。継続して改善を促したい。 ・自己管理 (貴重品管理、提出物の締切り遵守等) の意識を徹底できなかったため、継続して指導していきたい。 ・家庭学習時間が少ない生徒が多く、早めの志望先の決定を促すことで学習習慣の形成を図りたい。

3 学 年	成果	・ 体育祭、文化祭等の学校行事に落ち着いて取り組んだ。 ・ 大学受験を目指す生徒に模試と共通テストの受検を義務づけ、共テは 168 名出願し、進路変更 2 名と発熱 2 名を除く 164 名が受検した。 ・ 小論文・面接指導にきちんと取り組み、受検に臨むことができた。 ・ 朝学習の取り組みが 2 年時より改善した。 ・ 頭髪服装検査で指導される生徒がほとんど見られなかった。 ・ いじめや盗難等のトラブルがほとんどなかった。
	課題	・ 1, 2 年時から様々な進路プログラムを実施したが、3 年時でも進路に迷い、悩む生徒が多かった。 ・ 生徒自身で進学先を調べて出願することができず、担任に頼りっきりの様子が見られた。 ・ 全科目の試験範囲と学習計画表の配付を行ったが、学習時間や学習量の増加にはつながらなかった。 ・ 特編期間の欠席が多く、共通テストでは思うような成果が上がらなかった。 ・ タブレットやスマホの不正利用が後を絶たなかった。 ・ スケジュール管理が甘く、提出物やアンケートの締め切りが守られなかった。